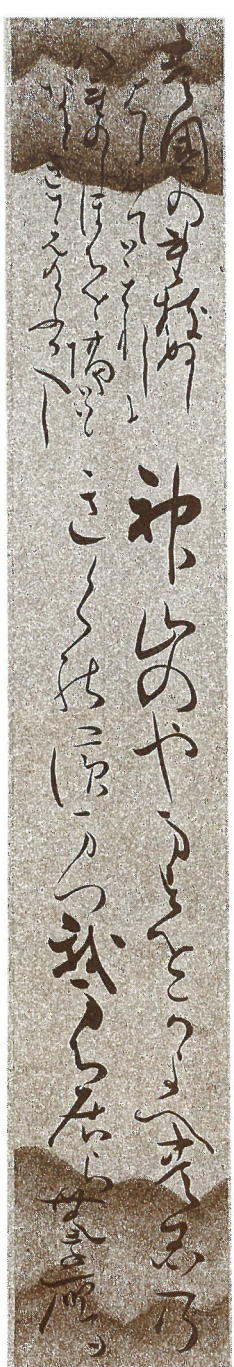
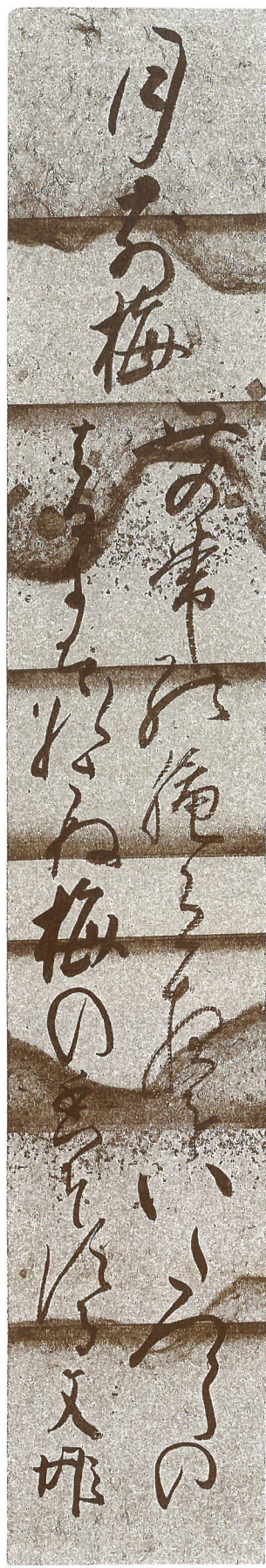


近世和歌の詠風や人物、歌書等に至る稀覯の研究資料を復刻。

近世和歌研究書要集

全八巻 中澤伸弘・宮崎和廣・鈴木亮 編・解説



クレス出版

『近世和歌研究書要集』の発刊によせて

都立足立高等学校教諭

中澤伸弘

近世はあらゆる面において新しい学藝が華やかに開花した時代であった。徳川氏治世の三百年に及ぶ昌平の化は、従来貴族の独占文藝であった「和歌」を庶民にまで普及せしめ、また「国学」の勃興によつて我が国独自の心情を尊ぶ気運を生じ、広く我が国風の和歌が重視せられるに至つたのであつた。加へて出版技術の向上は歌集歌書の刊行を容易ならしめ、多くの歌を広く世に伝へること、なつたのである。

近世の和歌は時代においては三百年の長きに亘り、その間様々な歌が詠まれてきた。古今伝授の流れを汲む天皇皇族、堂上や武家の詠風、その革新を

訴へた庶民の自由な詠歌、また「国学」による尚古的なものや、香川景樹に代表せられる桂園派の流れ、一方で萬葉調の復古的なものを始め幕末志士の絶唱に至るまで、単に「近世和歌」の一言では片付かぬほど広範囲に詠まれてきた。殊に近世後期の加納諸平による『類題鮫玉集』を嚆矢とする、全国歌人の歌を類題別に集めた歌集の盛行は目を眩るものがあつた。

斯様な近世和歌ではあるが、これまであまり研究の対象とされて来なかつた感がある。それは一つには和歌そのものに過去の時代の模倣があつて秀作と呼ばれるものが少ないと言はれる事と、二つにはあまりにも膨大な量の歌集があつて、未だに翻刻化されずに多くの作品が世に知られずに埋もれるる状態にあると言ふ事である。

しかしながら近年、この近世和歌に対する研究が盛んになって来て、その歌風や歌人などを改めて取りあげてみると、なほ興味深いものがあつて、新たに脚光を浴びつつある。近世和歌の研究はこれからと言つても過言ではなからう。

ここに近世和歌研究の為の基本的な書物で今日容易に手に入れ難いもの、いくつかを集めて、詠風や人物、歌書等に至る研究の資料として『近世和歌研究書要集』を刊行すること、した。本書をもとに近世和歌の研究が更なる深まりをみせる事を祈つてやまないものである。

第一卷 近世和歌史

三二〇

第三十八 桂園派

梅月堂

新學異見と
百首異見

筆のさが

蘆庵によつて唱へられたただごと派の主張を一層發展させて近世和歌史上に偉觀を示したのは香川景樹である。景樹は夙く桑梓の地たる鳥取を離れて京都に出で、三十歳の時梅月堂香川景柄の養子となつた。梅月堂は都下に於ける民間の宗匠家であつて宣阿以來景新景平景柄と四代打續いて當流歌學の家筋である。景樹は小澤蘆庵に私淑し伴蒿蹊等の先輩に伍して歌名が漸く著れた。後養父と意見を異にしたので、離縁して桂園の一派を開いた。而して誠といふことを眼目とし、誠は即ち調、調は即ち歌といふ意見を立て大に古學派に當つた。景樹は自信が強く霸氣もあつて、新學び異見及百首異見を著して契沖の改觀抄及眞淵の新まなびの説を痛撃した。

敷島の歌のあらず田荒れにけりあらずきかへせ歌のあらず田と自らその救済者を以て任じてゐた。そこで同人間に於て歌狂とか歌狐とか切支丹などの悪名を着せられた。京都に於ける先輩からさういふ批評を浴びせられたばかりでなく、江戸に於ける新古典派の橘千蔭や村田春海は筆

第七卷 続々歌集解題餘談

八四、伴蒿蹊傍註 その一

架蔵の「閑田耕筆」(享和元年三月板)にはないが「閑田文章」(享和三年三月板)の巻末には「閑田大人著書目」があつて、「国文世々跡」「譯文童諭」「勝地吐懷篇題頭」「近世崎人伝」「同統篇」「閑田耕筆」「閑田文章」「増補題字要解」があげてあり、未刻として「閑田次筆」と「大和物語抄補翼」の二部を出してゐる。享和三年未刻であつた「閑田次筆」は文化三年秋開板で、それに

「閑田大人著述書目」があり、「閑田文章」と同じ順序であつて「門田早苗」「庭の訓抄」「歌辞要解」が加はつてゐるが、「大和物語抄補翼」は「未刻」。「萬葉類葉代匠記句解」「同統篇」が「近刻」となつてゐる。この「未刻」「近刻」は、文化二年正月板の「門田のさなへ」も既にさうである。

蒿蹊の著書には挿絵入りのものが多く、なかでも田中訥言の挿絵のすぐれたものが多い。

訥言の挿絵は、款記のないものが多いが、世上訥言と認められてゐるのは、「好古日録」「好古小録」(藤井貞幹)「東海道名所図会」(秋里離島編)「菅家寔録」(松本愚山)「閑田耕筆」(蒿蹊)

「四方の硯」(畑民部維龍)「門田のさなへ」(蒿蹊)「庭の訓抄」(蒿蹊)「閑田次筆」(蒿蹊)などである。「好古日録」は寛政七年九月の板である。挿絵は款記がないが訥言の図写と伝へられてゐるが、否定説もある。

「東海道名所図会」は寛政九年十一月の板で、この挿絵は多く、筆者も多数で、土佐光貞・応挙・月溪・在明・応受・直賢・文鳴・素絢・夙夜・草僊・友汀・中和・春曉齋・蕙齋たちに訥言も入つてゐる。そのうちで訥言は近江山王の祭の図で一つは阪本本社祭と一つは唐崎の御旅所の神供である。

訥言の生歿には説があるが、京都五条坂日體寺の墓と過去帳で文政六年三月二十一日歿五十七歳が信すべきものとされてゐる。すると「東海道名所図会」板行の寛政九年は訥言三十一歳であるが、寛政二年竣工の新内裏の御簾の間の手前の杉戸も描いてゐると云はれ、寛政二年は二十四歳で若い。しかし「東海道名所図会」では珍しく款印「訥言」がある。

「閑田耕筆」(寛政十二年)では、『訥言』の署名に「訥言」の印がある。三十四歳である。訥言の署名には二様あつて、訥言の訥の旁が「内」と「肉」があつて、これを区別するのに「ジントツ」「イリトツ」といつてゐる。「耕筆」は「ジントツ」である。蒿蹊ものの訥言挿絵の代表は「門田のさなへ」であるが、これには款記はない。

「東海道名所図会」の挿絵の仲間入りをしたのは、訥言の力量にもよつたであらうが、編者の秋里離島と蒿蹊とのつながりによる処もあつたらう。「閑田文章」は五冊で、巻之一は「辞・説・解」、巻之二「序・弁」、巻之三「職・記・記事・論・頌」、巻之四「文・

近世和歌研究書要集 全八巻構成

第一巻

近世和歌史

福井久蔵著／昭和5年／成美堂書店

第二巻

徳川時代和歌の研究

窪田空穂・松村英一共編／昭和7年／立命館出版部

第三巻

幕末の歌人

福井久蔵著／昭和20年／研究社

幕末歌壇の研究

森敬三著／昭和10年／楽浪書院

第四巻

近世和歌の新研究

森敬三著／昭和18年／日本出版社

近世女流歌人の研究

森敬三著／昭和10年／素人社書屋

第五巻

文学遺跡巡礼 抄(一)

光葉会編／昭和13、15、16年

橘守部(宮野敏子)／橘千蔭(岡本峰子)／楳取魚彦(藤山和子)／石川雅望(清水濱臣)／鈴木寿枝(屋代弘賢(星出為子)／石原正明(荷田在満(富田静子)／北村季吟(香川泰子)／村田春海、岸本由豆流(佐藤濤子)／下河辺長流、加藤美樹(上田布佐子)／富士谷成章(江沢邦子)／荒木田久老(大手敏子)

第六巻

文学遺跡巡礼 抄(二)

光葉会編／昭和16、18年

戸田茂睡、伴信友(薄千鶴子)／山岡俊明(山本幸子)／石川依平(井倉茂子)／北村湖春(小野典子)／斎藤彦磨(大橋紀子)／今井似閑、油谷倭文子(武田夏葉子)／木下長嘯子、藤井高尚(浪田愛子)／松平定信(鈴木敏子)／萩原宗固(高信鎮)／本居春庭(平形秀子)／伴蒿蹊(小谷駿子)／井上文雄(岩田光子)

第七巻

続々歌集解題餘談

熊谷武至著／昭和43年／私家版

続々歌集解題餘談 弐

熊谷武至著／平成元年／私家版

第八巻

近世和歌書誌刪補

熊谷武至著／昭和51年／私家版

類題和歌集私記

熊谷武至著／昭和47年／私家版

近世和歌研究書要集 全八巻

中澤伸弘 (都立足立高等学校教諭)

宮崎和廣 (財団法人無窮会東洋文化研究所特別研究員) 編・解説

鈴木 亮 (成蹊大学大学院博士課程在学)

- 第一巻 近世和歌史
- 第二巻 徳川時代和歌史の研究
- 第三巻 幕末の歌人、幕末歌壇の研究
- 第四巻 近世和歌の新研究、近世女流歌人の研究
- 第五巻 文学遺跡巡礼抄 (一)
- 第六巻 文学遺跡巡礼抄 (二)
- 第七巻 続々歌集解題餘談 巻、式
- 第八巻 近世和歌書誌刪補、類題和歌集私記

A5判/上製函入/クロス装/本文クリーム中性紙

揃定価95,000円(税別) ISBN4-87733-301-0(セット) 平成17年11月25日刊行

萬葉集歌人研究叢書 全10巻

青木周平、谷口雅博、城崎陽子、倉住 薫 編・解説

- | | | | |
|--------------|----------------|--------------|-------------------|
| 1. 大伴旅人・大伴家持 | 佐佐木信綱 定価7,800円 | 7. 笠金村・高市黒人 | 犬養孝・田辺幸雄 定価5,400円 |
| 2. 旅人と憶良 | 土屋 文明 定価5,800円 | 8. 山上憶良・山部赤人 | 谷 馨・森本治吉 |
| 3. 柿本人麻呂 | 武田 祐吉 定価6,600円 | 憶良の悲劇 | 森本 治吉 定価6,800円 |
| 4. 人麿の世界 | 森本 治吉 定価7,200円 | 9. 萬葉皇室歌人 | 森本 健吉 |
| 5. 人麻呂抄 | 吉村 貞司 定価6,000円 | 萬葉集作家の系列 | 五味 保義 定価8,800円 |
| 6. 高橋虫麻呂 | 森本 治吉 定価5,400円 | 10. 萬葉女人 | 樋口 清之 定価4,600円 |

揃定価64,400円(税別) ISBN4-87733-207-3(セット)

百人一首研究資料集 全六巻

吉海 直人 編・解説

- | | |
|--|------------------------------|
| 第一巻 資料・目録 『尊円百人一首』『近衛百人一首』 | 第四巻 かるたの本 『百人一首かるたの話』 |
| 第二巻 注釈一 早川自照『七家輯叙小倉百人一首』 | 第五巻 英訳百人一首 F.Dickins三点、野口米次郎 |
| 第三巻 注釈二 『 <small>直注新注</small> 小倉百人一首実習ノート』 | 第六巻 論文集 伊藤嘉夫氏の業績(異種百人一首翻刻) |

揃定価44,000円(税別) ISBN4-87733-205-7(セット)

西行研究資料集成 全10巻

西澤 美仁 監修・解説

- | | | | |
|-----------------|-------|---------------------|-------|
| 第1巻 増補 山家集抄 | 釈 固浄 | 第6巻 西行法師名歌評釈 | 尾山篤二郎 |
| 第2巻 山家集詳解 | 梅澤 和軒 | 第7巻 西行法師 | 窪田 空穂 |
| 第3巻 西行法師伝 | 梅澤 和軒 | 第8巻 西行法師評伝 | 尾山篤二郎 |
| 第4巻 異本山家集 附録西行論 | 藤岡作太郎 | 第9巻 西行・西行研究録・西行の伝と歌 | 川田 順 |
| 第5巻 類聚 西行上人歌集新釈 | 尾崎 久弥 | 第10巻 西 行 | 風巻景次郎 |

揃定価94,000円(税別) ISBN4-87733-159-X(セット)



株式会社 クレス出版

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メロナーナ日本橋
☎03-3808-1821 ☎03-3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>